第1回山口県GMPカレッジ推進会議 概要

1 令和5年度山口県薬工連携GMPカレッジの取組について 資料説明後、出席者から意見等を聴取

※発言順に記載

出席委員	意見等
製薬工業協会 藤原会長 (武田薬品工業)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の医薬品市場は人口減少に伴い縮小し、輸入超過であることを踏まえ、グローバルを見据えないと山口県の製薬産業の発展は困難。 ・今年度の取組は、学生にも業界の置かれている状況や、発展に向けて必要なことを考えるきっかけとなったと思う。 ・来年度以降も発展するためには、何が必要かを戦略的に考え、フォーカスを絞って活動する必要があり、今年度はその足掛かりとしてよい一歩が踏み出せたと思う。
製薬工業協会 町田副会長 (田辺三菱製薬工場)	<ul style="list-style-type: none"> ・県内で職に就きたいと考える学生の割合が低いので、薬局等も含めて県内の医療系企業で働きたいと思えるような取組にしていくべき。 ・今年度当社で実務実習を受け入れて、学生から「企業としての効率化への取組み」等に対する感想・コメントをいただきありがたかった。 ・対応した当社若手従業員を見て、我々も得るものが多かったと感じたので、交流機会の拡大には当社も積極的に取り組んでいきたい。
山口東京理科大学 池北理事長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年初めての卒業生を輩出し、先輩がいなかったこともあり、製薬業界を希望する学生が少なかったととらえている。 ・県内に素晴らしい企業がたくさんあることを学生がまだ理解できていないので、今年度の1年生向けの取組は相当よかったと思う。 ・それぞれの学年に対して、的確に人材確保に向けた取り組みを大学としても行っていきたい。
製薬工業協会 猪俣理事 (帝人ファーマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の企業を知ってもらう良い取組ができていると感じたが、学年が進むにつれて、企業希望者が減少しているので、製薬業界への興味を維持していくところを考えないといけない。 ・大学内に協会事務局があるので、そこを拠点に情報発信し、企業側が活用して学生との双方向のコミュニケーションをとってはどうか。
県薬製薬部会 宮本部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・1期生の製薬業界への就職状況は？ <p>⇒プレス情報によると4名が企業へ就職し、うち1名が県内</p>
東京理科大学 櫻井教授	<ul style="list-style-type: none"> ・国内ほとんどの薬学部でGMP教育を行っていない中、工学部も含めた取り組みは非常に良い試みである。 ・日本では創薬の良いシーズを商用生産まで繋げるための開発人材と、製造人材の2種類の人材が現在不足している。 ・2005年の薬機法の改正で製造委託ができるようになっているが、18年を経過し、本社GQPの下で、製造保証、管理監督できる人が少なくなっており、GMPの人材育成は非常に望まれているタイミングである。 ・安全第一の製薬産業を活性化させる必要があり、山口県の取組は非常に先進的である。ぜひ協力していきたい。

<p>製薬工業協会 伊藤理事 (協和発酵バイオ) ※欠席 コメント代読</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は工学部にも対象を広げた取り組みとなった。企業として、薬学部は重要だが工学系の人材も必要としているので、活動を継続していただきたい。 ・卒業後に地元製薬企業で活躍していただきたいので、当社も協力を継続していく。 ・従事者向けのプログラムでは、当社従事者も気づきが多く業務に活かせる内容であった。今後も是非参加したい。
---	--

2 これまでの取組の総括、令和6年度取組（素案）について

- ・資料説明後、出席者から意見等を聴取

※発言順に記載

出席委員	意見等
<p>山口東京理科大学 池北理事長</p>	<p>(医薬工学科について概要説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育内容として、バイオロジクス分野の研究・開発・製造（分析、市場化）等の、一連のプロセスに係る基礎的・専門的な知識技能の教育を行う。 ・3年又は4年生ではインターンシップ実習を取り入れていきたいと思っているので、連携をお願いしたい。企業の皆様に客員教授をお願いして単位化することも検討している。 ・数理情報科学科、医薬工学科や電気、機械など、工学部も合わせてGMPカレッジに参加する仕組みを作っていきたい。
<p>製薬工業協会 藤原会長 (武田薬品工業)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今やっている活動が、サステイナブルかどうかという観点もよく見ないといけない。 ・提案ビジョンとして、全国の製薬企業とか海外企業から求められる学生を育てるプログラムも検討してはどうか。例えば、海外テキストを使って英語で講義を行い、世界企業に人材を輩出していくブランド力のある学部・大学にしていく等。 ・ただ、これまでのGMPカレッジのように一歩ずつ始めていくということも、やっていくべきだと思う。
<p>山口東京理科大学 池北理事長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年薬学部を卒業した1名の学生がアメリカの大学院に入学する。一部の学生については（海外も視野に入れて）、10名程度に特別なメニューで指導をしてきた。 ・公立大学の使命もあり、地域人材の育成も外せない部分もあるが、御意見のように、ビジョンも大切であることは間違いないので意見を参考にやっていきたい。
<p>製薬工業協会 町田副会長 (田辺三菱製薬工場)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実務研修で来場した学生からは、直接現場の雰囲気を体感してもらって、企業のコスト意識等に触れていただいたが、その中でも患者さんを思って作っていることを理解できたとコメントをいただいた。 ・体験型は気付く点が多く、実際の仕事のイメージが深まると思うので、企業の負担はかかると思うが、積極的に数多く取り入れていけたらいいのではないかと。

	<ul style="list-style-type: none"> ・サステイナブルであるかどうかは重要で、短期的な無理をせず、継続的に続けられる取組みになるように検討していただきたい。
製薬工業協会 猪俣理事 (帝人ファーマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の機会拡大という点で、インターンシップの活用など積極的に進めていきたい。
薬剤師会 宮本部長 (製薬部会)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の薬剤師の数自体は過去最多だが、製薬企業に従事する薬剤師は年々減少しており、確保するのは年々難しくなっている。 ・県薬剤師会としても、このGMPカレッジの活動に期待するものは大きいので、会として今後協力できることは協力していきたい。 ・薬工連携の人材育成の必要性は承知しているが、工学に偏りすぎないようにご配慮いただけたらと思う。
山口東京理科大学 池北理事長	<ul style="list-style-type: none"> ・学内に製薬工業協会の事務室を借りていただいているので、学生が活用しやすい、情報を得やすい場所に育てていきたいので、協力をお願いします。 ・学内にディスカッションができる部屋があり、GMPカレッジでも活用いただきたい。
東京理科大学 櫻井教授	<ul style="list-style-type: none"> ・提案として、プラント会社やCDMO・CMO関係会社も含めて、ニーズ調査を行い、開発人材の育成も手掛けるということも一つの案。 ・日本もオールジャパンでやっていかないといけない。GMPに関心を持つ県としては、富山県・静岡県などもあり、東京理科大学、富山大学、富山県立大学などもあるので、連携して取り組む仕掛けもあると良いと思った。
製薬工業協会 伊藤理事 (協和発酵バイオ) ※欠席 コメント代読	<ul style="list-style-type: none"> ・業界は、いくつもの問題が発生し、規制が厳しくなっている状況で、人材不足が顕著になっている。 ・学生、また就職後においても、継続的に人材育成していく必要があり、一企業だけでは育成に限界もあるので、地域や行政、大学を含めた活動が重要。